

地域福祉計画の基本理念について

前回までの検討結果等をもとに、地域福祉計画の基本理念を定めるにあたっての考え方を下記のとおりまとめました。

<考え方>

高齢化が加速し、後期高齢者の割合が増加することにより、これまでの福祉施策で支え続けることができるのか。そういった中、理想論ではなく現実的な方法で支え合いの地域社会を形成していく必要がでてくる。

近年の無縁社会という言葉にあるように、地域のつながりが薄れてきている現状があり、協働の場や支え合いの地域を作っていくための最初のつながりが作りづらくなっている。また、住民自体に「社会貢献をする」という発想が育っていないという状況もある。

地域福祉とは「児童、高齢、障害」といった限られた人だけを対象とするわけではなく、地域に暮らすすべての人が支え合い、いきがいをもって生活していくためのもの。自身だけではなく、様々な個性、あり方をしている人同士が、お互いを認め合い、お互いの立場を尊重し、受け入れていくことが、地域における参画の推進や、人権の尊重につながっていく。東村山市民全体として、これまでの生活の在り方を見直し、お互いに連帯して支え合っていく意識づくりが必要となってくる。

また、雇用の悪化に伴う共働きの増加や保育所の待機児の増加、高齢者や障害者に関する課題が多様化していく中、行政施策だけではなく、協働を進めることでの対応方法を探っていくことも必要となる。「自分だけがよい」ということではなく、それぞれの問題をお互いが自身の問題として理解し合い、行政だけではなく、住民、当事者が参加し、担い手になるという地域福祉の推進を進めていく必要がある。

住民の健康意識については、小さいころからの食育、特定健診や介護予防事業の推進等により増進が図られている。一方、高齢化の加速や、若い世代の自殺等の問題も生じている。健康増進は地域コミュニティの推進や、医療費、介護保険料の適正化の面からも重要であり、社会の多様化、高齢化が進む中、今後ますます重要となってくる。

また、高齢社会における、認知症、疾病等による寝たきり等の問題については、就労やボランティア等、生きがいを持った生活を送ることや、地域での生活を医療、介護の面から支えていくようなしくみなど、生きがいを持って安心して暮らせるまちにしていく必要がある。

以上の考え方から、キーワードとして下記の内容を抜き出し理念案としました。

キーワード案

つながり

- ・ ・ 地域福祉を進める上で、お互いにつながりを持つことが第一歩となる。
行政だけではなく、住民、当事者が参加することで、福祉の担い手となる。

認めあい

- ・ ・ 交流することにより、お互いに理解をシェア。
それにより一人一人を尊重していくことができる。

支えあう

- ・ ・ お互いに支え合いながら、協働していくことができる。

いきいきと

- ・ ・ 健やかに、いきがい（人と人との交流や環境との共生）をもち、
安心した暮らしをおくることができる。

第4次地域福祉計画 基本理念（案）

ともにつながり、認めあい、支えあう

いきいきと暮らすことができるまち 東村山

（又は いきいきと暮らせるまち 東村山）